

なわをなう  
年末はお手製のしめ縄飾りで！

12月15日、天岩戸交流センターあまてらす館で、甲斐義晴さん（日之影町）を講師に迎えしめ縄づくりが行われました。午前中はリース型、午後は前垂れ型を作成。参加者は、まずは藁を水で濡らし叩く作業から開始。柔らかくなった藁を足で押さえながら始めました。藁まみれになりながらようやく完成させたしめ縄を手に、安どの表情やうまくできた達成感に笑みがこぼれていました。



立派なしめ縄飾りができました。

注連縄発祥の地  
天岩戸神社注連縄張神事が開催

12月21・22日、天岩戸神社（佐藤永周宮司）で天岩戸注連縄張神事が行われました。昨年12月に神社創建以来、初めて御神体の天岩戸に注連縄を張ったことを機に、今年から注連縄張り神事を伝統行事として後世に残し、地域の活性化を図りたいと開催され、登山家の竹内洋岳さんや天野和明さんらによる張替えや演奏・演舞、揮毫などの奉納が賑やかな雰囲気の中で執り行われました。



毎年、冬至の日に張替えを行う予定です。

課題解決へ  
事業承継支援を行う取組みを開始

12月3日、町と町商工会（後藤和博会長）は、事業者の後継者支援として、株式会社ライトライト（齋藤隆太代表取締役）と事業承継に関する連携協定を結びました。同社が運営する「クラウド継業プラットフォーム Rella Y（リレイ）」において、事業譲渡希望者の記事を掲載し後継者を募集。全国に情報発信をすることで、課題の一つであったマッチングの解消が図られるなど、スムーズな承継が期待されます。



左から、後藤商工会長、町長、齋藤代表取締役

上位をめざして  
県市町村対抗駅伝競走大会結団式

12月8日、第12回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会（令和4年1月10日宮崎市で開催）に出場する選手団の結団式が行われました。昨年は、新型コロナウイルスのため中止となり2年ぶりの開催。町長が「コンディションを整え、一昨年の3位（町村の部）以上を目指してがんばってください」と、戸敷教育長が「走ることはもちろん、風景や沿道の応援する人たちを楽しんでください」と激励しました。



町選手団のみなさん。ご健闘を祈ります！

新年のご挨拶を申し上げます

新年、明けましておめでとうございます。町民の皆様には、心新たに、2022年の新春をお迎えることとお慶び申し上げます。

さて、令和4年も昨年引き続き、新型コロナウイルスによる困難な状況は続いておりますが、明るい兆しも様々にございます。

道路インフラにつきましては、昨年8月21日に九州中央自動車道「高千穂日之影道路」のうち、日之影町深角から平底間の2・3キロ区間が開通し、通行の安全性と利便性が大幅に向上しました。1月15日には、高千穂雲海橋道路3・3キロ区間の中心杭打ち式が行われ、3月までには五ヶ瀬高千穂道路9・2キロ区間の着工式が計画中です。今後とも官民一体となって、高速道路ネットワークの整備促進に取り組んで参ります。

また、この他令和4年は昨年からの継続事業を更に進捗させる計画です。昨年2月に西臼杵3町で「高千穂高校魅力向上推進委員会」

を立ち上げ、高校と3町で協議を重ねておりますが、更に輝き、選ばれた高校となるよう本格的に支援を始めていきます。

また、4月に郡内3町立病院の統合再編準備室を立ち上げましたが、令和6年4月からの経営統合を目指し、郡内医療サービスが持続的に提供し続けられるよう、医

師確保対策も含めしっかりと取り組んでいきます。さらに、昨年完成したITセンターへの企業誘致や、町内経済の活性化策として地域商社（仮称）高千穂まちづくり公社」の設立、観光面では鉄道公園化構想など、新たなことにもチャレンジして参ります。

寅年は「何か新しいことが生まれる」「種が芽吹き、強く大きく成長する年」とのこと。令和4年も、確かな成果を生み出しながら、子

供から高齢者までが安心していきいきと暮らしていただける、活気ある高千穂づくりを尽力いたしますので、町民の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

結びに、高千穂町の限らない発展と、町民の皆様のご多幸と健勝をお祈りし、本年が皆様にとって素晴らしい一年になりますことを願い、新年のご挨拶といたします。

